

甲府市立城南中学校

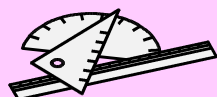
学校だより



H29-19号

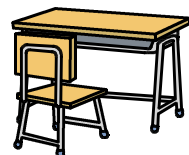
H30. 3. 6
文責 橋田 清

学校評価 その2



学校評価 その1 のつづき

「学校評価その1」での「教職員の自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」をもとに、職員会議などで改善策を話し合いました。また、2月28日に行われた学校評議員会で話し合われた「学校関係者評価」についても併せて載せておきます。



改善策など

1 学校経営について

- 一人に負担
 - 校務分掌をチームで運営する部分を増やしていく。
- 情報の徹底
 - 情報を出す側も3回告知(1ヶ月前、1週間前、前日)など声かけや確認を行っていく。
 - 教師自身が、自ら情報を求め、自他に確認し伝えるというように、参画、協働の姿勢を持つ。
 - 横のコミュニケーションを増大させるとともに、縦の情報伝達・共有を迅速に行う。

2 学校運営について

- 報告・連絡・相談の徹底
 - 学校の情報共有、学年間の情報共有には、時間差・情報差が必ず起こる。会議時間短縮は、共有理解が深まらないことにもなるので、ジレンマを感じる。
 - 会議では、資料を事前配布し先読みの後に要点説明する。質問により深化を目指したい。提案資料を工夫していく。
- 年度初めの学級懇談への参加
 - 年度末のPTA総会までにアンケートなどを実施し、役員の協力要請などを行い、あらかじめPTA役員については対応しておき、学級懇談の中心が役員決めににならないように工夫していく。

3 教育課程について

- 行事の充実
 - 学校行事等と関連した教科横断的な内容を各教科等の指導計画になるべく時期をそろえて指導できるように計画する。
 - 行事等の目的を明確にして、どのような力を身につけさせていくのか共通理解を図っていききたい。
 - 各行事の準備期間や実施時期については、その前後の行事等に関係を考えて設定していききたい。

4 学習指導について

- 授業改善
 - 校内研究で継続的に実践を積み上げていく。
 - 個別の支援計画などを作成と共有の方法を検討するとともに、ここの合理的配慮に必要な体制づくりを進めていく。

5 生徒指導について

- 情報共有
 - 優先順位を考慮して情報共有を行う。当該学年、全体に及ぶものを優先に行う。
- チームで対応
 - 不登校対策会議や学年会議等組織で担任を支える体制を継続していく。
- 教師の言動
 - 教師の権威的な言葉や荒ぶる言葉はどれも不快なので十分に注意する。よりよい言語環境づくりを行う。

6 家庭・地域との連携について

- 家庭学習
 - 家庭学習は、教科担当の宿題と担任が管理する学習とを工夫していくことが必要である。
 - 粘り強く生徒が自主的に取り組むように指導していく。

7 学校の特色について

- ふれあい集会
 - 講師との渉外、調整は経験値が必要であり、学年など横のつながりが必要である。

学校関係者評価 ～学校評議員会より～

- 質問 多忙化解消は？
 回答 ・城南中は、県の多忙化解消のサンプル校。ペーパーレス会議による資料づくりの軽減、部活動では、複数顧問による配置、原則土日どちらか休み、きずなの日など部活なしとする取り組み。
- 質問 ネット、スマホ対策は？
 回答 ・ネット、スマホについての学習会(民間団体、県警サイバー対策室)、教頭による各クラス道徳時「スマホと自分」をテーマに考える授業の実施。
- 質問 学習における個別指導は？
 回答 ・時間割に取り出し授業(個別指導)の担当者を配置し、「支援室」対応、特別支援生徒対応等にも担当配置を行っており、保護者の希望、承諾があれば実行できる状況。
- 質問 不登校の未然防止、早期対応策は？
 回答 ・生活ノートによる生徒理解、学級経営の質の向上のためQ U検査を2回実施、いやなこと調査を学期2回実施して未然防止、早期発見に努力。

意見

- ・詳細で綿密な時間割が作成され、綿密な対応ができるようになっていることを確認した。すばらしい対応だ。
- ・「支援室」は不登校対策における改善へに一步となる。
- ・日常の学校の様子を見てみると、評価項目の数値や状況がよく一致している。親として関心が高い学習については、評価は厳しくなっている。
- ・SC(スクールカウンセラー)との相談で生徒がまだ学校にいる時間帯では、仲間を気にして受けたがらない。時間外対応等の柔軟な対応をしてほしい。
- ・評価項目のほとんどが上昇している。マンモス校がこのような高い水準で運営されすばらしい。4月当初職員が大勢異動でぎくしゃくしていたが、その印象が大きく変わった。
- ・9割以上「よい」だが、少数の1割の意見や状況にも気を配ってほしい。

まとめ

- ・前年度評価より数値向上、経営ビジョン、指導重点項目が周知、理解され、組織的な運営がなされた結果である。
- ・大規模校での「情報の共有化・連携」も難しさが数値となって表れている。その課題について、伝達方法の電子化、ペーパーレス会議等、具体的な対策が進んでいるよう期待できる。
- ・学力向上については、ドリルなどの活用で実効性を高めた。
- ・不登校対策では、研修や会議を設定し、早期発見、早期対応を学年体制で進めている。成果がなかなか見えない取り組みだが、継続して行ってほしい。

